

Mental-Checkerは約10万人の感情分析データから開発された、感情分析により精神状態を振動測定するソフトウェアです。



生理的反応

神経質
抑 圧

精神状態判定ソフト

Mental-Checker

メンタルチェッカー



ポジティブ

安定性
カリスマ性
活力
自制心

Mental-Checker はデータベース200パターンから解析し数値化・グラフ化を
見える化かした未来のソフトウェア

攻撃性・ストレス・緊張・疑心・安定性・カリスマ性・活力・自制心・抑圧・神経質の10項目を瞬時に数値化・グラフ化することで対象者の状態を把握することが可能です。定期的に測定を実施することで感情の変化を把握したり、体調の予測をしたり、波長が合うパートナーを見つけたりと、日々の健康チェックにお役に立てます。



ネガティブ

攻撃性
ストレス
緊張
疑心

Mental Checkerの見方 その1

MENTAL CHECKER

精神判定結果



パーソナルデータ	
名前	
性別	
年齢	
ID	
日付	
Σ Vi	

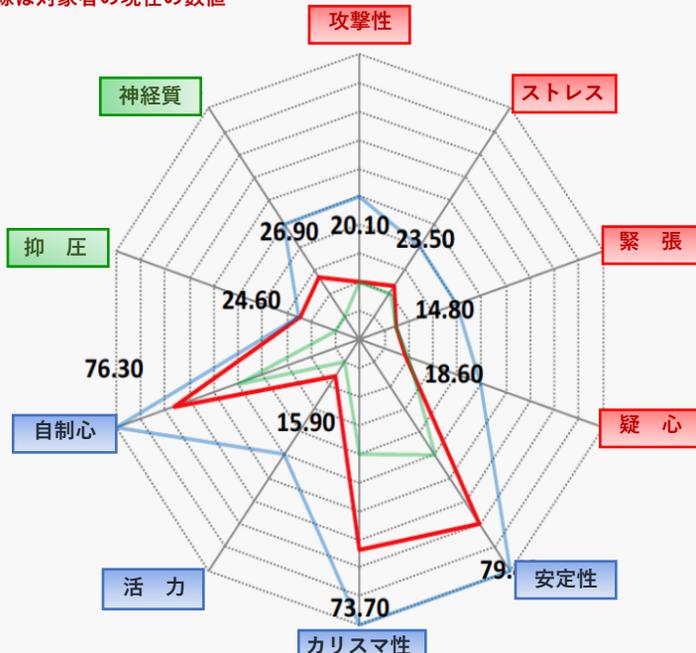
感情傾向	
外向性	92.9%
情緒安定性	72.3%
品質	64%

10の評価要素からの判定結果					
評価要素	最小	平均	最大	Vi	
攻撃性	20-50	8.6	20.1	27.7	29.8
ストレス	20-40	20.5	23.5	26.9	8.9
緊張	15-40	8.5	14.8	32.1	21.1
疑心	20-50	15.8	18.6	22.7	13.0
安定性	50-100	68.8	79.4	86.7	6.0
カリスマ性	40-100	70.8	73.7	81.5	2.7
活力	10-50	6.7	15.9	21.8	28.1
自制心	50-100	70.1	76.3	84.1	4.1
抑圧	10-25	18.5	24.6	30.1	10.9
神経質	10-50	0.0	26.9	26.9	19.8

評価要素チャート

感情分布チャート

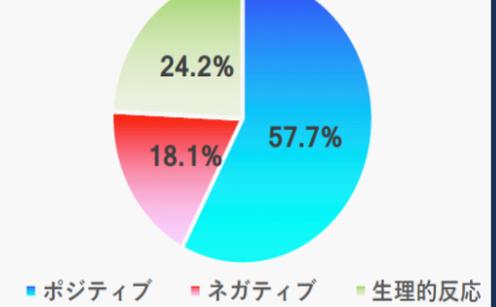
赤線は対象者の現在の数値



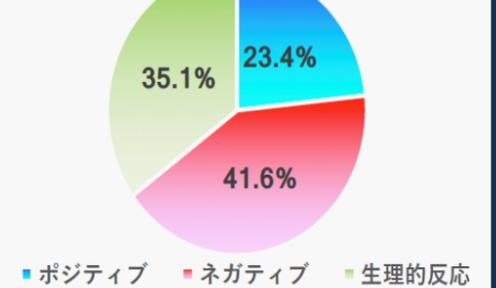
青線は正常範囲の最大数値

緑線は正常範囲の最小数値

現在の判定結果

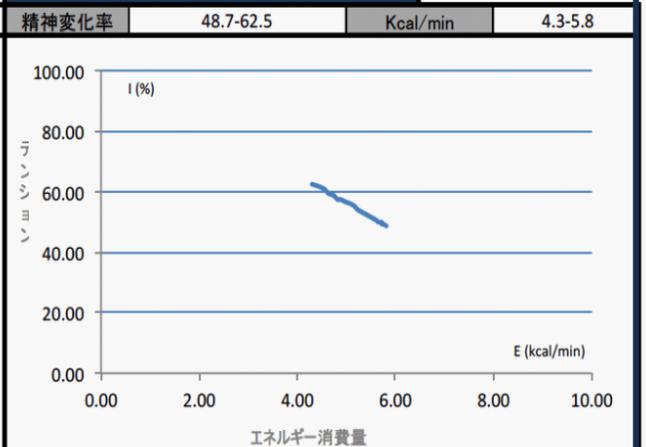
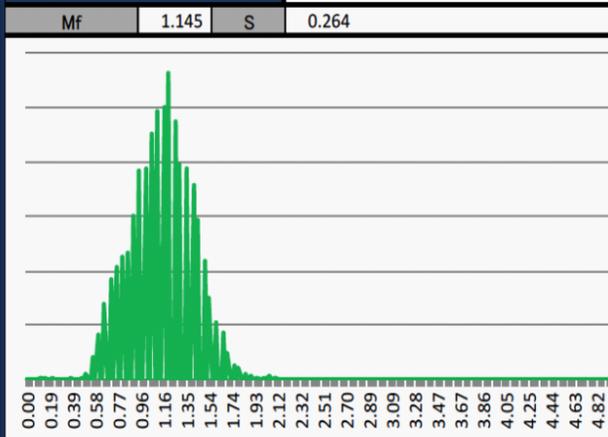


ばらつき



周波数のヒストグラム

精神的流動性- 精神的基礎代謝



正常範囲の数値

解析結果の平均の数値

解析結果から、各要素のバラツキの数値が大きい程変化しやすい傾向。
バラツキの数値が小さい程その結果が変化しにくい傾向。

ポジティブ要素

安定性・カリスマ性・活力・自制心の数値が正常範囲より低い場合は要注意。

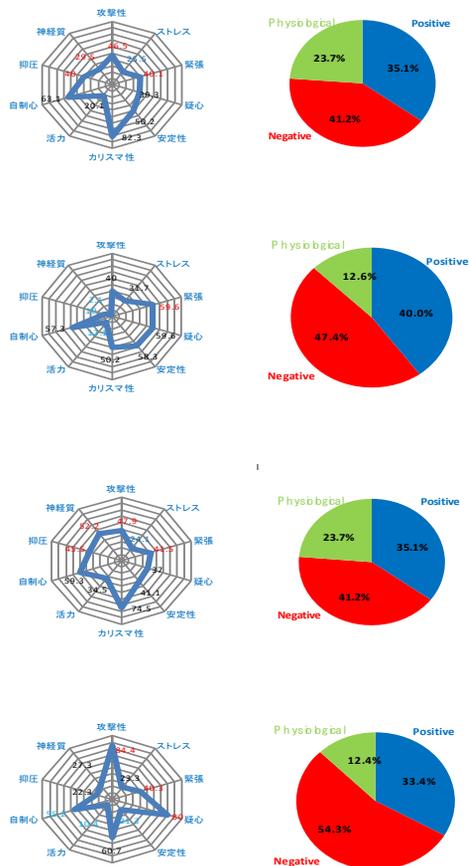
ネガティブ要素

攻撃性・ストレス・緊張・疑心の数値が正常範囲より高い場合は要注意。

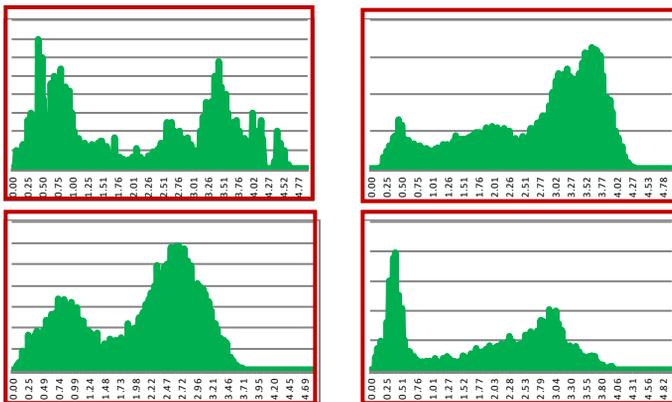
生理的反応

抑圧・神経質の数値が正常範囲より高いと肉体的な負担があり疲労傾向。

精神的に不安定な傾向がみられる評価要素・感情分布チャート例



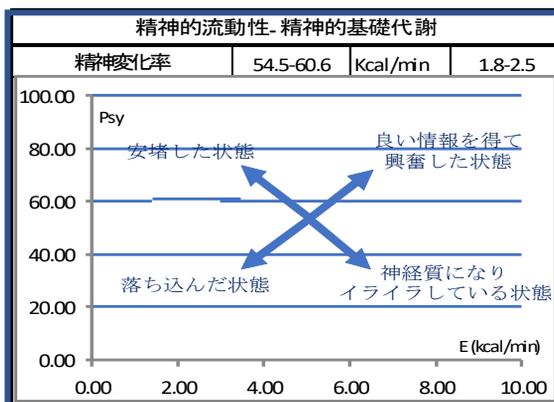
精神的に不安定な傾向がみられるヒストグラムの例



※正常な状態では、2.5Hzあたりを中心とした一山が釣り鐘型が理想です。上記のような幅広く山が複数になる状態は精神的に不安定な傾向がみられ注意が必要です。

精神的流動性・精神的基礎代謝の動き

縦軸は測定時間内での満足度・高揚感を示し通常の場合は50.00前後で推移します。
横軸は測定時間内でのエネルギーの使い方通常の場合は4.00~6.00のあたりで推移します。



※縦軸50~0に降下したり戻ったりと急激に変動する場合は精神的に不安定な傾向があります。縦軸が低い位置でエネルギー軸も0.00に近い位置で静止している場合は要注意。

Mental Checkerの見方 その2

通常の場合は15-20自由な活動のレベル。通常の人々の感情や生理的パラメーターは固定的なものではなく、30秒から60秒といった短い時間の中でさえ変化します。

バラツキレベルが低い場合に考えられる原因

- ①検査を怖がっているケースやシステムの検査が初めての場合。
- ②本当に何らかの病気の可能性があるケース。この場合低いのは当然であり、システムは問題を特定しております。身体的に不調とは限りません。

バラツキレベルが高い場合に考えられる原因

- ①精神生理学的状態が不安定であるケース。
- ②環境にノイズレベルが非常に多いケース。

10の評価要素の計算にあたっては、各パラメータ間での相関関係が少ないものを使用するメソッドを用いています。

なぜなら本システムの技術的課題は、頭部の動きについて最大限の情報を集める事だからです。この課題は各パラメータについて異なる計算によって実現されており、この手法によって10のパラメータシステムはその人の精神性心理学的、機能状態を表すことが可能です。

- ・ **攻撃性**（数値が高いと身体的、精神的な危害を加えようとする可能性がある状態）
振動の周波数分布の最大値が大きくバラツキ値が大きい程、数値は高くなります。
- ・ **ストレス**（重圧や苦悩の感情）
振動の振幅と周波数の左右の差が大きいと数値が高くなります。
- ・ **緊張**（心配事や恐怖を感じたりと不安な状態）
振動の周波数スペクトルにおいて、高周波振動の密度の値が高いと数値は高くなります。
- ・ **疑心**（攻撃性、ストレス、緊張から導き出された数値）
人の状態におけるネガティブで要素で、数値レベルが高い（60を超える）と特に注意が必要。
- ・ **安定性**（精神状態の均衡状態）
周波数ヒストグラムの正規分布との類似性が高いと数値は高くなり、正規分布より著しく崩れていると低い。
- ・ **カリスマ性**（人々をひき付けたり、信服させる特質や魅力）
振動の周波数と振幅の対称性が高いと数値は高くなります。
- ・ **活力**（物事を成し遂げる気力、活動の源として体内に保持する力）
振動周波数密度の最大値が高く、バラツキが小さい程数値は高くなります。座ってる状態では通常のエネルギーレベル10~20です。このレベルは高い身体活動もしくは脳の活動にリンクしており、不安な状態の場合も高くなります。
- ・ **自制心**（安定性、カリスマ性、活力から導き出された数値）
ポジティブと位置づけられる感情より決定され、ポジティブと位置付けられる感情の全体的なレベルを表す。
- ・ **抑圧**（強い刺激に対する生体の機能的な反応）
提示された出来事（刺激）に対する人の最短反応時間を示します。反応時間が長い程レベルは高いです。
- ・ **神経質**（不安や恐怖、苛立ち、嫉妬、孤独感等の機能的な反応）
抑圧レベルの測定値のバラツキを示します。バラツキレベルが高い場合、精神生理学的状態が不安定です。

システム上（Mの欄、もしくは印刷プレビュー2ページ目）の測定結果が以下のように色分けされる場合がある。

 パラメータの値が正常範囲の最小値より小さいとき。

 パラメータの値が正常範囲の最大値より大きいとき。

最大値・最小値は各パラメータ毎によって異なり、平均化されないため、平均値をとっても正十角形はならない。

一度の測定でも複数回の測定でも有益な情報を得られます。

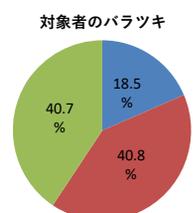
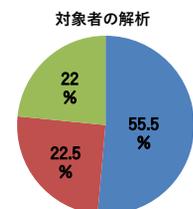
①平均のチャートからの情報

- ・感情のポジティブとネガティブの比率。ポジティブの割合が多ければよりポジティブな精神状態であるということです。正常な状態においては、Mチャートのポジティブな感情の割合は50%以上になります。
- ・ネガティブと生理的反応の割合。ネガティブより生理的反応パラメータの割合が大きければ、その人は精神的問題より生理学上の問題があると示します。

②バラツキのチャートからの情報

- 正常な状態においては、チャートのネガティブな感情は生理的反応の割合とほぼ同じでポジティブな感情は少ない程安定している。ポジティブな感情のバラツキが大きいという事は、ポジティブな感情が不安定でありネガティブに変化する可能性があることを示す。

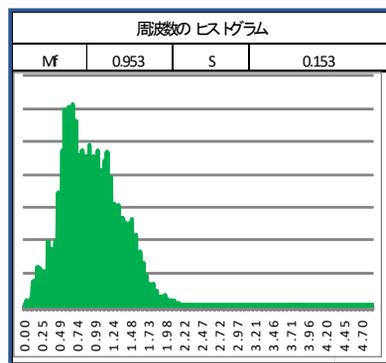
ポジティブな感情  ネガティブな感情  生理的反応 



4. ヒストグラム

1.Mf (平均)

個々の精神生理学的状態によるため、これらのパラメータには標準値はありません。静止している状態ではMfは約1Hzと低く、活動的な状態では約2.5Hzになります。さらに活発な状態では4Hzになります。以上は正常。

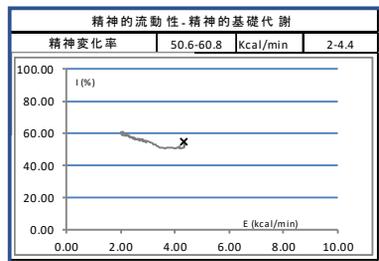


2.S (標準偏差値)

Sが低いのはより良い状態といえますが、個々によって変化するため一般的な標準を設定することは不可能です。分布の形と併せて見ることが大切です。Sのレベルが高く(0.4Hz以上)、ヒストグラムの分布が正常であれば問題ありませんが、同じSレベルでも分布に複数の最頻値がある場合は精神生理的に不安定な状態といえます。

3. ヒストグラム分布の形状

正常な状態においては、グラフの中心付近を頂点とした、細い山なりの形状となります。山の頂点が左に寄っている(最頻値が低い)場合は疲労が蓄積した状態、右に寄っている(最頻値が高い)場合は精神的に興奮状態です。頂点が複数見られたり、乱れた形状は精神生理的に不安定な状態といえます。



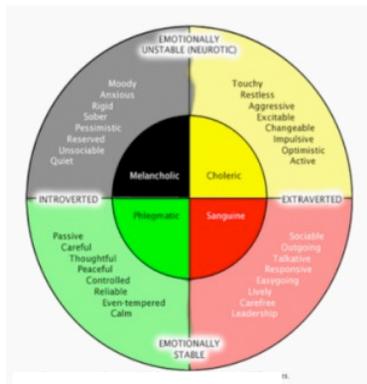
4. 精神的流動性

グラフの右側が赤色のオーラに対応し、左側が青色のオーラに対応します。Y軸(縦軸)は対象者の心理的快適さ(満足度、安心感)を示し、X軸(横軸)は対象者のエネルギーの消費を示します。通常の精神状態では、30秒~60秒でもグラフに動きがみられます。グラフでY軸が激しく乱れたり(0に降下)、X軸の少ない数値で一切変動が見られない場合は注意を要します。

5. 精神的流動性

対象者の情緒安定性が20%である場合、不安定性が80%という事になります。また、外向性20%、情緒安定性20%という結果だと精神状態が悪いという訳ではありません。どんな人格の形であっても、それぞれの長所・短所を見つける参考に活用。

結果 [映像品質 100%]		
外向性	72	情緒安定性
		75.1



ここではハンス・アイゼンクのパーソナリティ研究に基づいた判定を下しています。

Eysenck Personal Inventory (EPI); 内向性・外向性、安定・不安定(精神症傾向)の4つの指標からみたパーソナリティパターン。

- 安定性外向的 (Stable extraverts): 社交的・おしゃべり・活発のんき・リーダーシップ等の楽天的な資質。
- 安定性内向的 (Stable introverts): 冷静・落ち着いている・信用できる・控え目・穏やか・思慮深い・用心深い・従順等の冷静な資質。
- 不安定性外向的 (Unstable extraverts): 神経質・落ち着きが無い・興奮しやすい・気まぐれ・衝動的・場当たりのなどの短気な資質。
- 不安定性内向的 (Unstable introverts); 静か・無口・悲観的・まじめ・: 厳格・気難しい等のメランコリーな資質。

Mental-Checker測定時のポイント及びシステム上の注意点

- 原則、デフォルト設定のまま測定を行います。※メーカー推奨カメラはMicrosoft Life Cam / Studio
- カメラは必ず固定が原則。
- 測定場所の照明等が安定しており、十分な照度が必要。(400~600Lxが推奨)
- 画角に光や被験者以外の人や物が映り込んで居ないことが条件。(反射しない背景で被験者のみが映る状態)
- カメラのホワイトバランス、ノイズレベルをテストチャートを用いて確認する。
- 録画映像を用いる場合、読み込み後最初の20秒は移行プロセスで、20秒後に測定スイッチをスタートします。

被験者

- 複数回測定することで、より信頼性の高い結果を得ることができます。
- 測定前に1分程度、深呼吸等で精神を落ち着けて、自然でリラックスした状態で測定を行って下さい。
- 測定時は椅子の背もたれやひじ掛けを使用しない、振動成分を抑えることで正しい結果が得られないため。
- 測定時には大きく動いたり、手を顔の前や動かす行為は禁止。